

◎人間文化学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

“地球的規模での共生”の視点から人間と社会のあるべき姿を探り、多様な文化の理解と健全な生活を営む知性・先見性・専門知識と、柔軟で複眼的な思考力を身につけ、地域社会に貢献する人材を育成します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間文化学部は国際文化学科と健康科学科の2学科で構成されています。長い時間を経て形成され変化し続ける文化を学ぶ国際文化と、共通する文化の基盤をなす身体と健康について学ぶ健康科学。両学科の特性を活かして人間の文化・生活・身体・健康の諸課題を総合的に捉える「人間文化学」を構築したいと考えています。

人間文化学部の特色は、少人数制の教育です。国際文化学科ではゼミ形式の授業と徹底した語学教育、健康科学科では基礎から応用まで多くの実験・実習科目が用意されています。

文系的あるいは理系的発想だけでは解決困難な課題が増えている現在、柔軟で複眼的な思考力を身につけ、自ら挑戦する資質を育むため両学科とも常にカリキュラムの検証を行い、最新・最善のカリキュラムを提供しています。

学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」について、判断する基準を各科目において設けた上で、学期中や学期末に行うレポート及び小レポート・プレゼンテーション・筆記試験・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度の観察や学生相互の評価などの方法を組み合わせて、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間文化学部は、次に掲げる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を持ち、世界のさまざまな文化を理解し、対等な立場で他者と協力し合える人、真に豊かで健康な生活の実現を目指し、生涯にわたる健康の維持・増進に積極的に取り組む人を求めています。

【知識・技能】

文化と社会、生活・身体・健康に関する基礎学力を持っている人

【思考力・判断力・表現力】

文化と社会、生活・身体・健康に係る諸問題について、論理的に思考し、さまざまな観点から多面的に考察し、自分自身の考えをまとめ表現できる人

【主体性・協働性】

文化と社会、生活・身体・健康に係る諸問題に関心を持ち、積極的に取り組む意欲と協力して学修を進めていこうとする態度を持っている人

◎国際文化学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学修成果

4年間の学科専門科目の履修を通して、世界を構成するさまざまな文化に関わる以下の能力を身につけ、その能力を人々の幸福と世界の平和のために活用することができる人文学的基盤を獲得した学生に、学士（国際文化学）を授与します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに軸足を置いて、次の基礎的能力・体系的知識を身につけている。

- A. 文化的背景の異なる人々との相互理解を可能とする高い英語運用能力、及び英米文化に関する体系的知識
- B. 日本列島に展開した文化に関わる様々な資料を読み解く能力及び日本文化に関する体系的知識
- C. 中国語、もしくは韓国朝鮮語を用いる人々との相互理解を可能とする言語運用能力及び東アジア文化に関する体系的知識

【思考力・判断力・表現力】

上記の基礎的能力・体系的知識に基づいて、次の思考力・判断力・表現力を身につけている。

- a. 英米文化に関わる諸問題について、言語・文学・歴史・社会などのさまざまな人文学的観点から複眼的に考察し、その成果を十分に表現することができる力
 - b. 日本文化に関わる諸問題について、東アジアや欧米との関係に視野を広げながら、言語・文学・歴史・社会などのさまざまな人文学的観点から複眼的に考察し、その成果を十分に表現することができる力
 - c. 東アジア文化に関わる諸問題について、隣接する諸地域との関係を視野に入れて、言語・文学・歴史・社会などのさまざまな人文学的観点から複眼的に考察し、その成果を十分に表現することができる力
- ・ 英米・日本・東アジアの文化を相互に比較・考察することを通して、それぞれの文化の特質と価値を理解し、その考察の成果を十分に表現することができる力
 - ・ 英語・中国語・韓国朝鮮語及び日本語を比較・対照的に考察することを通して、それぞれの言語の特質を理解しつつ、運用することができる力

【主体性・協働性】

上記の基礎的能力、体系的知識、思考・判断・表現力を身につけた上で、次の発展的能力を獲得している。

- ・ 多様な価値観を尊重し、相互理解を実現するために、人間と社会のあり方について考え続けるとともに、グローバルな視野から、国際社会が抱える諸課題を発見し、その解決に向けて行動することができる力

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育課程の編成方針

- ・ 国際文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため、「英米文化」「日本文化」「東アジア文化」の3つの主専攻プログラムと「人間理解・国際理解」「比較文化」「比較言語」の3つの副専攻プログラムを設定し、体系的性と一貫性のある学修を実現します。
- ・ 3つの主専攻プログラム及び学科共通専門科目を横断的に学ぶ副専攻プログラムによって、グローバルな視野から社会を考察する力、複数の地域の文化を相対的に比較考察する研究方法を身につけ、異なる文化間において相互の価値観を尊重し合い理解し合うために必要な態度を養成します。

2 授業科目の配当

- ・ 1・2年次には、学科基礎科目と専門教育の基礎となる「外国語」を集中して配当しています。
- ・ 「外国語」は英語・中国語・韓国朝鮮語の中から第一外国語（8単位履修）を選び、これにドイツ語・フランス語を加えた5言語（留学生は日本語を選択できます）から第二外国語（4単位履修）を選ぶこととしています。
- ・ 英語、中国語、韓国朝鮮語は、ネイティブ・スピーカーの専任教員の配置により、4年間を通じての語学学修を可能としています。
- ・ 2年次に各分野の基礎を学ぶ講義科目「論」を、3年次に演習科目「基礎演習」「演習」を配当しています。一連の「論」「基礎演習」「演習」の3科目を履修することにより、一つの学問分野をより深く系統的に学ぶことができるようにしています。
- ・ 4年次には、専門教育の集大成として「卒業論文演習」「卒業論文」を必修としています。

3 授業の形態と実践的展開

- ・ 人文学を中心とする学問的成果をふまえた幅広い知識を活用して、課題を深く探求し、根拠に裏付けられた論理を組み立てて表現する力を養成するため、「基礎演習」「演習」をはじめとするゼミ形式の授業では、課題の設定、資料の収集と分析、研究発表と討論を重視します。
- ・ 国際交流センター等と連携し、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、中国、韓国等の大学での短期研修や留学を通して、語学力を伸ばし、異文化に対する理解を深める機会を提供します。また、留学生の受け入れを通して、日本語教員養成課程で得た成果を実践する機会を提供します。
- ・ 地域連携センター、宮島学センター等と連携し、地域文化学（宮島学）、博物館実習、教育実習などの授業を発展させ、宮島観光英語ボランティアガイド、地域文化資料の企画展示、小中学校での教育ボランティア活動、イベントの翻訳ボランティアなど、学生が主体的に地域貢献を実践できる場を提供します。

4 資格・免許の取得

- ・ 必要な専門科目と教職に関する科目を履修することにより、中学校・高等学校の教諭一種免許状（英語、国語、中学の社会、高校の地理歴史・公民）を取得することができます。
- ・ 必要な専門科目を履修することにより、学芸員の資格を取得することができます。
- ・ 日本語教員養成課程の科目を履修することにより、「日本語教員養成課程修了証書」を取得することができます。

5 学修成果の評価

学修成果の評価については、適正な学修時間を確保した上で、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」の3つの要素について、判断基準を各科目の特性に応じて設けた上で、学期中や学期末に行うレポート及び小レポート・プレゼンテーション・筆記試験等のほか、授業への能動的な参加度の観察や学生相互の評価などの方法を組み合わせて、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

社会が複雑さを増している現代にあつて、人類の平和と進歩に寄与するためには、さまざまな世界の文化を理解し、グローバルな視点をもって平等な立場から協力し合える人材が求められています。

国際文化学科では、地域文化に対する幅広い知識と洞察力を養い、既成概念に捉われない柔軟な発想で、現代社会に対応できる問題解決能力と外国語運用能力を備えた人材育成を目指しています。

2 人材育成目標

自国の文化についての知識と敬愛の心を持ち、他国の文化、特に英米や東アジアの文化に対する理解を深め、人々の幸福と世界の平和のために行動する人材を育成します。

3 求める学生像

世界を構成するさまざまな文化を理解し、対等な立場で相互に協力し合える人を育成する国際文化学科では、次に掲げる能力を備えた人を、各種の試験により選抜します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている人。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている人。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている人。

4 入学者選抜の基本方針

〔一般選抜（前期）〕

大学入試センター試験の得点と、本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で可否を判定します。大学入試センター試験では、国語、社会、理科又は数学、外国語を課し、知識・技能を中心に教科書レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の国語と外国語では、記述式の問題を課すことにより、思考・判断・表現力などを評価します。

国語では、本学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を確認するため、国語総合・国語表現・現代文A・現代文B・古典A・古典Bの範囲から出題し、点数化して評価します。

外国語では、本学科で学ぶ上で必要な外国語運用能力を確認するため、コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱの範囲から出題し、点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

〔一般選抜（後期）〕

大学入試センター試験の得点と、本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で可否を判定します。大学入試センター試験では、国語、社会、理科又は数学、外国語を課し、知識・技能を中心に教科書レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の小論文を課すことにより、思考・判断・表現力などを評価します。

個別学力検査では、本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため、小論文を課します。小論文では、論理的な思考力、独創性、読解力、基本的な文章の表現力、記述力などについて総合的に判断し、点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

[推薦入試]

県内高等学校等推薦（一般枠）

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため、小論文と面接を課します。小論文では思考・判断・表現力を中心に評価し、面接では、本学科で学ぶことに対する意欲と目的意識の高さ、主体性・協働性を中心に評価し、調査書により知識・技能など教科書レベルの基礎学力を確認します。

小論文は、論理的な思考力、独創性、読解力、基本的な文章の表現力、記述力などについて総合的に判断し、点数化して評価します。

面接では、本学科で学ぶこと目的、勉学に対する意欲・志向等について質問し、目的意識の高さ、思考・判断・表現力や主体性・協働性などを総合的に判断し、点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

県内高等学校等推薦（異文化体験枠）

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため及び学科アドミッション・ポリシーで「求める学生像」として示した、「世界を構成するさまざまな文化を理解し、対等な立場で相互に協力し合える人」の中核となる能力（「異文化理解能力」と「コミュニケーション能力」）を評価するため、日本語と外国語による面接及び外国語によるエッセイを課します。

日本語による面接では、学修計画書に関する質疑応答を通じて、論理的な思考力、表現力、異文化理解力などを評価します。

外国語による面接では、外国語でのスピーチと質疑応答を通じて、スピーキング能力を評価します。

外国語によるエッセイでは、論理的な思考力、表現力などを含めたライティング能力を評価します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ異文化理解やコミュニケーションのための基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、自身の異文化体験を踏まえて、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、自身の異文化体験を踏まえて、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

[帰国生徒特別選抜]

書類審査、現代日本語及び面接の結果を総合して選抜します。現代日本語は論文、評論等から出題し、国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。面接は海外での経験を踏まえて国際文化学科で学ぶ目的や勉学に対する意欲・志向等について質問し、個性の豊かさ、応答の仕方・態度などを総合的に判断し、点数化して評価します。書類審査では教科書レベルの基礎学力を確認します。

【知識・技能】

海外での経験を踏まえて、英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、海外での経験を踏まえて、世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、海外での経験を踏まえて、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

[外国人留学生特別選抜]

本学科が行う試験及び日本留学試験の結果、TOEFL 又は TOEIC の結果を総合して選抜します。本学科が行う試験は現代日本語及び面接です。現代日本語は論文、評論等から出題し、国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。面接は国際文化学科で学ぶ目的、勉学に対する意欲・志向等について質問し、個性の豊かさ、応答の仕方・態度などを総合的に判断し、点数化して評価します。学修に必要なコミュニケーション能力を重視します。

【知識・技能】

英米文化、日本文化、東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち、なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけているとともに、本学科で学ぶ上で必要な日本語運用能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で、母国の文化と世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち、そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として、主体的に考察を深め、相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。